

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
M3140204	臨床病理学 (Clinical Pathology)					生命健康科学コース専門分野	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態				
必修	2	2	医学部先進医療科学科	後期	金2	日本語		複数(共同)				
担当教員	氏名 内田 智久、駄阿 勉、西田 陽登 E-mail tomohisa@oita-u.ac.jp 内線 5693											
授業の概要	病理学は、病気の原因とメカニズムを明らかにすることを目的とする。臨床病理学 で扱う病理学各論においては、諸器官および、それらを構成する諸臓器の解剖学、生理学を理解したうえで、病理学総論の学修内容を踏まえ、それら諸器官、諸臓器に発生する個々の疾患について、その病因または原因、発生病理または発症のメカニズム、病態、病理形態を学修し、それが診断や治療の基礎になっていることを学修する。さらに症例検討の中で病理学総論・病理学各論で学んだ知識を応用して病態生理を組み立て、疾患をその基盤となる組織・細胞・分子レベルで説明できるようにする。											
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7					
目標1	各臓器の具体的な疾患からそれぞれの病態を説明できる											
目標2	症状や病理学的所見から病態生理を組み立てることができる											
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
各DPへの関連度(計10)							5	5				
授業の内容												
1	病理学各論 血管 (内田 智久)											
2	病理学各論 心臓 (内田 智久)											
3	病理学各論 呼吸器 (内田 智久)											
4	病理学各論 小児病理 (内田 智久)											
5	病理学各論 造血およびリンパ組織 (駄阿 勉)											
6	病理学各論 腎・泌尿器 (駄阿 勉)											
7	病理学各論 男性生殖器 (駄阿 勉)											
8	病理学各論 女性生殖器・乳腺 (西田 陽登)											
9	病理学各論 内分泌 (西田 陽登)											
10	病理学各論 筋・骨格 (駄阿 勉)											
11	病理学各論 皮膚 (西田 陽登)											
12	病理学各論 脳・神経1 (内田 智久)											
13	病理学各論 脳・神経2 (内田 智久)											
14	症例から病態を学ぶ (内田 智久)											
15	症例から病態を学ぶ (内田 智久)											
ラーニンググループ	A:知識の定着・確認	知識を総合し学生の前でプレゼンテーションをおこなう。					工夫その他の	症例問題をグループごとに担当して、その病態生理について発表・討論会を行う。				
	B:意見の表現・交換											
	C:応用志向											
	D:知識の活用・創造											
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(33h)。										
	事後学修	授業で学習を活かし、理解を深める(35h)。										
	想定時間合計	68										
教科書	教科書は指定しない											
参考書	ロビンス基礎病理学 10 版 Vinay Kumar (著), Abul K. Abbas (著), Jon C.Aster (著), 豊國 伸哉 (監修, 翻訳)、丸善出版、2018 年 Robbins and Cotran Review of Pathology, 5th edition Edward C. Klatt MD (著), Vinay Kumar MBBS MD FRCPath (著)、Saunders、2012年											

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	期末試験	80%										
	症例検討発表会	20%										
注意事項												
備考												
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	医師											
実務経験を いかした教 育内容	臨床の現場で必要となる知識を習得させる。											